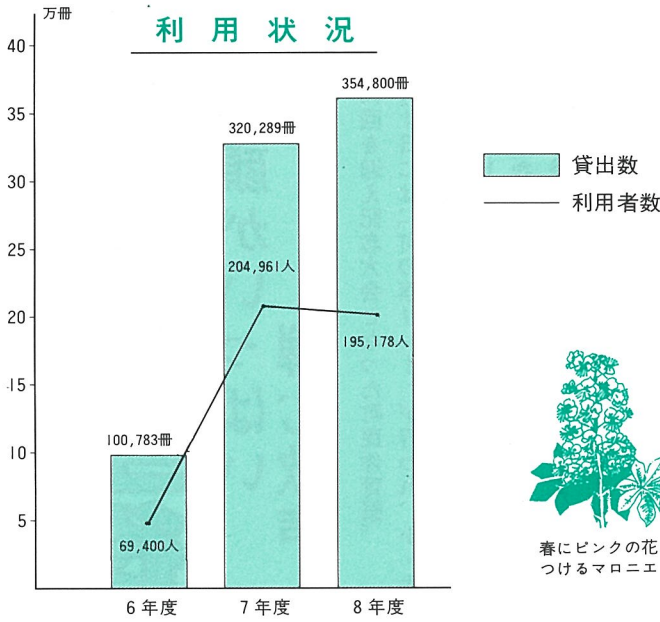


## 利用状況



春にピンクの花をつけるマロニエ

## 予約サービス

(リクエスト)

○探している資料が見つからない時、貸出中の時には、予約(リクエスト)できます。資料が戻り次第ご連絡します。

○当館に所蔵していない本は、購入または、他の図書館から借用して、できるだけご希望にお応えします。

○電話・FAXによる予約も受付しています。

## レファレンスサービス

(読書相談・参考調査)

○本に関する質問や調べものに必要な本の紹介などのご相談に応じます。

『読書相談』カウンター職員にお尋ねください。

## 「マロニエ読書会」誕生

光町に読書会が誕生しました。橋場の伊藤雅美さんと原方の伊藤文枝さん、お

二人の呼びかけにより、今年2月1日に発会式が行われました。

読書会の名称は、文化の森公園を象徴する樹木の名前から「マロニエ読書会」と決まりました。会員数は現在20名、会長は辻の実川龍一さんです。

読書会は偶数月の第2土曜日ごとに開催され、会員は課題図書を事前に読んで参加します。4月から10月まで課題図書として取り上げられたものは、高橋治著『風の盆恋歌』・五木寛之著『生きるヒント』・川端康成著『伊豆の踊子』・藤沢周平著『一茶』です。

同じ一冊の本を読んだの感想は、会員一人ひとりの受け止め方が異なる場合も多く、自分一人だけでは味わえない作品の読み方、感じ方を楽しめるところが、読書会の一つの魅力のようです。会員登録中ですの興味のある方は図書館までご連絡ください。

## 図書館を

## 身近なものに



坂本成生 司書

私がまだ学生だったころ、急に必要な本があった、図書館に探しに行くと、目的の本が見つからず、がっかりした覚えがあり、そんな時、しばしば「図書館はあまり役に立たない。」と思っただことがある。

今、図書館で仕事をしていると、予約をすればいいのにと、リクエストをしてくれれば他の図書館から取り寄せるのと思いつつ、ふと自分が過去に経験した、悔しさを思い出す。図書館をよく知っている者から見れば、図書館で必要な本が入手できないことはなく、要求すればほとんどの本の提供を受けられるというのが常識だが、実際に、生活の中で本が必要になる場合、たとえば結婚式のスピーチをするので参考になる本が

ほしいとき、必要な本が図書館に無く、取り寄せるから待ってくれと言われても間に合わないことがある。そうすると、「役に立たない。」と言われても仕方がないかと思う。

さらにもう一つがっかりしたことがある。ある町の人に話を聞いたとき、「私は、本は買って読むものだと思います。」と言われた。図書館の人を前にして、ずいぶん言いにくいことを言う人だなと思ったが、確かに本は買って読むという主義の人が多くことも事実で、反論の余地はなかった。しかし、心の中で「本は図書館で選んで気に入ったものを買うようにすればいいでしょう」と呟っていた。

ところで現在、一年間にどれだけの本が出版されているかご存知だろうか。

マンガと学習参考書を除いた数で、約五万点もの本が出版されている。そして、その中から図書館が受け入れることができる数は約二割に過ぎない。つまり、残りの八割の本は、図書館でも出会うことができないということになる。

大都市のように、必要な

本がいつでも揃う書店もない「まち」にこそ、誰もが役に立つと思うような図書館が必要だと言われている。その理由は、書店で入手できる本は、これまで出版されてきた百万冊以上の本の一部でしかなく、図書館では、それ以外の本でも、県立図書館などと協力しながら提供することができる。つまり、図書館は単に本がある場所ではなく、人と本を結び付けるパイプのような役割を持つ存在なのである。

光町立図書館は、開館から三年、百万冊の貸出しを達成した。これは、図書館にとっては一つの節目だが、図書館を使う立場からすれば、図書館の内容を満足している人ばかりではないだろう。

図書館では、出版された本すべてを備えることは不可能であり、その意味では、本場に役に立つ図書館とは言えない。しかし、できるだけ多くの人に役に立つ使い方を知ってもらい、生活の中に必要な図書館を目指していきたい……。